

# 平成 26 年度事業報告

(平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日)

## 【概況】

当法人は、昭和 39 年 1 月の創設以来、日本の文学・哲学・教育・美術等の各分野に多大な影響を与え、東洋の精神文化の基幹をなしてきた禅及び禅文化を、総合的に研究し、その成果を普及して、広く世界の人類文化に貢献する事業を展開してきた。

今年度は、研究所創立 50 周年にあたり、10 月に記念式典を行なうと共に、記念出版や墨蹟展などの関連事業を行なった。

禅文化の普及では以下の活動を行なった。

調査研究活動では、中国禅宗史・禅語録研究班をはじめ各研究班が従来通りの研究を継続、成果としての刊行にむけての作業を進めている。

資料収集・資料公開活動では、デジタルアーカイブスとして禅宗寺院が所蔵する文化財を電子データとして記録し保存する事業を本格化し、一般寺院所蔵の宝物のデジタルアーカイブ整備事業も進んでいる。26 年度は埼玉県平林寺や山口県常栄寺、東京都麟祥院など所蔵品の悉皆調査を行なった。

広報・普及活動では、公開講演会や、様々なメディアを利用して禅文化の普及に努めた。書籍等の刊行として『坐る』、『禅の至宝』や DVD 『王道を歩め』などを刊行した。

収益事業では、宗教法人管理システム「擔雪Ⅱ」の販売やサポート、臨済宗や他宗派の宗務所管理システムの機能追加への対応や保守サービスなどを行なった。

共益事業では、遠諱事業を中心とした臨黄合議所関連の業務を行なっている。

## I. 禅文化普及事業（公益目的事業）

### 〈1〉調査・研究活動

#### 1. 中国禅宗史・禅語録研究班

当法人は、設立以来語録研究班を組織し、禅文献のうち最重要とされる中国唐宋代の禅語録を継続して会読している。これらは禅の語録を、唐代・宋代の中国語の口語研究を踏まえ、語彙や文体の変遷と思想史の脈絡にしたがって読解してゆくものである。その成果は、唐宋の思想史解明に新たな観点を提供するものとなり、また、唐宋の口語研究に寄与するものとなる。

参加メンバーは仏教学、哲学、文学、中国語学などの研究者や学生、一般からの参加者などで構成され、学際的な雰囲気の中で研究が行なわれている。

#### 唐代語録(『祖堂集』)研究会〔班長 西口芳男〕

『祖堂集』は『景德伝灯録』の編集に先立つこと 52 年、完存する禅宗灯史の書としては現存最古のものであり、現代の禅に直結する唐五代の禅の資料の古層をなすものとして貴重である。北宋初期の当時の最高の知識人の刊削裁定を経た『伝灯録』に比べて、野趣

に富んだ生の資料を提供してくれるものであり、口語研究の資料としても、近年、とみに注目を集めている。既に40年前、この研究班では、入矢義高・柳田聖山の指導のもとに読まれ、当時の原稿によって『訓注祖堂集』（国際禅学研究所報告第8冊、2003年）として当時の成果が発表されている。今回は『祖堂集』を成立させた福州の雪峰教団の禅師をメインにして深く読み進め、『祖堂集』成立の背景を探ることを目的とする。

今年度は、巻十の鏡清和尚を読み終え、つづいて翠巖和尚章（全六則）・報恩和尚章（全三則）・化度和尚章（全五則）・鼓山和尚章（全十三則）・安國和尚章全十三則の第九則までを読み進めた。また『『祖堂集』巻七雪峰和尚章訳注（上）（下）』（『禅文化研究所紀要』第三十一号・三十二号）を一冊にした冊子を「唐末五代転型期の禅宗一一九、十世紀福建禅宗の思想的動向（一）『祖堂集』巻七雪峰和尚章訳注」と題して発行した（発行人：衣川賢次）。

研究会の開催日は、4/25、5/9、5/23、6/12、6/26、7/11、9/26、10/24、11/14、11/28、12/12、2/27、3/13。

班員：衣川賢次（花園大学教授）／川島常明（大通院住職）／松岡由香子（花園大学非常勤講師）／千田宗琢（花園大学非常勤講師・正眼短期大学講師）／久保讓（花園大学科目等履修習生）／古勝亮（京都大学博士後期課程）／鈴木洋保（花園大学非常勤講師）／鈴木史己（京都大学博士後期課程）／土屋昌明（専修大学教授）／小川太龍（花園大学非常勤講師・常楽寺）／橋本和雄（国際禅学研究所研究員）／小宮山祥広（仏楽学舎）／吳進幹（（杭州佛学院からの留学生戒法法師）／竹田治美（奈良学園大学人間教育学部准教授）

#### 「神会語録」研究会〔班長 西口芳男〕

敦煌写本禅宗文献の中で最も重要なものの一つに神会関係のものがある。神会の語録の校訂本には、つとに、胡適氏、鈴木大拙氏のものがあるが、敦煌博物館本やいくつかの断片写本が出揃うと、従来の校定には限界のあることがわかり、新たな定本、正確な訳文、詳細な注釈の作成が待たれていた。本会ではこの点を重視した読解を進めてゆく。

今年度は、休会となった。

班員：衣川賢次（花園大学教授）／中島志郎（花園大学教授）／北島利信（花園大学非常勤講師）／松岡由香子（花園大学非常勤講師）／千田宗琢（花園大学非常勤講師・正眼短期大学講師）／久保讓（花園大学科目等履修習生）

#### 「景德伝灯録」研究会〔班長 西口芳男〕

禅語録中、最も基本的かつ重要な文献である『伝灯録』全30巻を、近年の日中両国の中国口語史研究の成果を踏まえて、千八百の古則公案といわれる問答の一つ一つの意味を解明することに重点を置き読解を進めている。

今年度は、前年に引き続いて、巻十六・雪峰義存章の定稿化進め、巖頭全豁章に進んだ。

研究会の開催日は、5/25、8/3、9/28、11/16、1/6、3/28。

班員：衣川賢次（花園大学教授）／松岡由香子（花園大学非常勤講師）／千田宗琢（花園大学非常勤講師）／久保讓（花園大学科目等履修習生）／三浦國雄（大東文化大学教授）／土屋昌明（専修大学教授）／下定雅弘（岡山大学教授・北京事務所長）／末木文美士（国際日本文化研究センター教授）／齊藤智寛（東北大学准教授）／石野幹昌（名古屋大学大学院博士課程）／石井修道（駒澤大学教授）／小川隆（駒澤大学教授）／須山長治（駒澤大学非常勤講師）／中木 愛（龍谷大学専任講師）／古勝亮（京都大学博士後期課程）／

橋本和雄（国際禅学研究所研究員）／酒井規史（中央大学兼任講師・早稲田・専修大学非常勤講師）

## 2. 禅宗經典研究班

禅文献に関わる經典類のうち、これまで未開のものについて独自の研究を進めると共に、臨濟宗で常用される經典についても、現代に即した内容や形態は何かを究明し、一般に普及する方策を考える。

### 「楞伽經」研究会〔班長 常盤義伸（花園大学名誉教授）〕

禅文献と深い関わりをもつ『楞伽經』研究は、学界の未開分野とも言われ、長い間、十全な研究がなされてこなかったが、常盤義伸教授は、『楞伽經』四卷本を基に、南条文雄博士校訂梵文を再構成し、世界で初めて完全英訳・和訳を成し遂げた。

本研究会は、常盤義伸著『楞伽宝經四卷本の研究』をテキストとして、梵本と求那跋陀羅三蔵の漢訳本を対比しながら読み進めている。

本年度は巻四第 111 段より巻四の終わり（第 120 段）までを読み終えたが、未消化に終わった巻一に帰って読み始めた。

研究会の開催日は、4/28、5/26、6/29、7/28、9/22、10/27、11/17、12/22、1/26、2/23、3/23。

班員：西口芳男（禅文化研究所）／小嶋孝（東洋大学大学院哲学専攻・仏教学専攻博士前期課程終了）／種村辰男（塾講師、FAS 協会会員）

### 臨濟宗經典研究〔班長 西村惠学〕

現代の臨濟宗で常用されている經典について、その声明や經本を中心に整理し、現代人に受け入れやすいものを考え、一般に普及するような方策を考慮して制作する。

## 3. 哲学研究班〔幹事 森 哲郎〕

平成 26 年度も、「大蔵会」としての仏典研究会を上田閑照先生のご指導のもと年 4 回ほど開催した。長期に渡る「華嚴五教書」の講読研究完了(平成 24 年 2 月 24 日)の後には、新たな仏典研究会として、世親の『唯識三十頌』の講読研究をほぼ 1 年間継続し、その読了後は、『成唯識論』に取り組んでいる。チューターは大井和也氏が努め、6 月 15 日、8 月 31 日、11 月 16 日、2 月 22 日の 4 回、実施した。

なお同じく上田先生のご指導のもと、西田哲学研究会と西谷研究会も各通年 4 回の頻度で継続している。西田哲学研究会では、『意識の問題』や『芸術と道徳』を終えて、目下、主著の『働くものから見るものへ』に取り組んでいる。

西谷研究会では、夢窓国師の『夢中問答』を輪読した後に、西谷先生の後期の作品の講読研究をしている。目下、「空と即」を終えて、次回より『禅の立場』に挑戦の予定である。

## 4. 日本禅宗史・禅語録研究班

日本の伝統教団を形成した祖師たちの伝記や語録を体系的に整備し、現代的に解釈することを目的とする。班員は所員を中心としたメンバーで構成する。

### 「寂室語録」研究〔担当 能仁晃道〕

永源寺開山寂室元光禅師の語録の訓読、注釈、意識を行なう。底本は、永和三年に印行

されたと思われる天理図書館所蔵の五山版。

これまで佐々木陵西師（天台宗智教寺住職）が中心となって研究を続けて来たが、本人が病気長期療養に迫られたため、能仁晃道が後任となり研究を進め、平成 27 年 6 月中には、一応の原稿が出来上がる。その原稿をさらに永源寺派現管長、及び永源寺派有識僧が是正し、最後に能仁がまとめ上げ、同 28 年 9 月に上梓の予定である。

#### **『延宝伝灯録』研究**〔担当 阿部理恵〕

日本の禅僧・居士ら約千人の伝記を、卍元師蛮が撰述した『延宝伝灯録』の訓注作業を行なう。本書は江戸時代までの日本禅僧の伝記の集大成として位置づけることができるが、歴史学の成果に加えて難解な禅語の知識が不可欠であったため、従来訓読等が刊行されたことはなかった。現在、全文を読み下し文とし、注釈を付す作業を継続中である。

#### **『白隠』研究**〔担当 芳澤勝弘〕

白隠禅師の語録『荊叢毒蘂』の訓読文および現代語訳、事項注釈について継続検討を行なった。その研究成果として平成 27 年 4 月に『白隠和尚荊叢毒蘂』乾坤を刊行した。『白隠年譜』についても継続研究を行ない、平成 28 年 2 月に『新編白隠禅師年譜』（仮称）を刊行する。

#### **江湖開山語録研究**〔担当 能仁晃道〕

臨済宗各派寺院の協力により、開山・中興開山等が残した語録類を整理し、訓注を行なう。本山以外の寺院に残る語録類の訓注は、殆どなされておらず、日本禅宗史上重要なものが多い。今年度は、南禅寺派南陽院開祖である毒湛匠三禅師の語録の訓注を行なった。また、妙心寺派平林寺中興開山鉄山禅師の語録『懶斎集』を読み下し文とし、注釈を付す作業を継続中である。その研究成果は遠諱記念として刊行する。

### **5. マルチメディア研究班**〔班長 西村恵学〕

印刷物をはじめ、音声、映像、ホームページなど、多様なメディアを通して現代人に禅をわかりやすく伝える方策を研究する。平成 26 年度には、禅のこころを生かしたミニ・カレンダーである「2015 年禅語こよみ」（画賛・小池心叟）、DVD 禅僧が語るシリーズ第 10 作である『王道を歩め』（嶺 興嶽）、創立 50 周年を記念して所蔵書画軸を掲載した図録『禅の至宝』などを刊行した。

## **〈2〉資料収集・資料公開活動**

### **1. デジタルアーカイブス**

禅の文化として大切に遺されてきた書画を中心としたアーカイブを、劣化しないデジタルデータとして保存していくことを目的とする事業。一応のデータ収集までに概ね 7 年を目途として活動している。

将来的には、以下のような事業を通して蓄積した画像と資料に基づいて、「禅文化財WEB博物館」（仮称）を制作し、国内外にバーチャル博物館として、禅の文化財を紹介していく事業として展開したい。

#### **「禅の至宝」(文化財目録整備事業)**

各派本山や、文化財を多数所蔵する由緒寺院の宝物を、保存性や再現性に優れた電子デ

一タで記録し利用するための「デジタルアーカイブ 禅の至宝」を、23年度から運用開始。協力の得られた寺院に撮影に出向くなどして、絵画・墨蹟類を中心にデジタル写真に撮影しデータベースに保存する。また同時に、専門分野の学芸員に依頼してそれらデータの目録情報を入力。平成 26 年度には、埼玉県の平林寺所蔵品の悉皆調査を完了、ほかに山口県の常栄寺、東京湯島麟祥院より依頼をうけて調査を行なった（27 年度も調査継続中）。また、愛知県吉良の花岳寺所蔵品の主要所蔵品の撮影を行なった。禅文化研究所 50 周年記念展にむけて撮影した所蔵書画軸の全点（約 390 点）の写真データもデータベースに登録を完了した。なおこれらの調査には、花園大学歴史博物館と強く連携している。

### 一般寺院什物データベース

①に連携するために優品を有する寺院所蔵の宝物のデジタルアーカイブ整備事業として、簡易なデータベースを内部で開発構築し販売を開始しているが、上記の文化財目録整備事業における調査を行なった当該寺院に、このデータベースシステムの利用を促し、所蔵品のデジタル画像と目録のデータベース化を推奨し、データ入力を完了した状態で納品している。26 年度には岐阜八百津の大仙寺のデータを納めた。現在は甲斐の恵林寺のデータ作成中。

## 2. 資料の収集・整理・公開

### 資料室所蔵品の整理・公開(利用)

当法人がこれまで収集してきた 37,000 点にのぼる文献資料のうち、未整理分を当研究所で開発した資料管理ソフトを用いて今年度は 1,053 冊を入力した。オンライン蔵書検索への対応も検討中。蔵書には、他の図書館や資料館にはない貴重なものが含まれており、これらの閲覧も、従来通り内外の研究者や禅に関心のある一般人に無料で開放した。今年度の購入冊数 20 冊。

また、京都大学総合博物館で開催の「貝原益軒没後 300 年記念 益軒と京都書肆柳枝軒展」に、保寧寺文庫所蔵の『禅海十珍』他 2 点を出品した。

### WEB版所蔵墨蹟展

当法人が所蔵する書画を、ホームページ上でバーチャル墨蹟展として随時公開中。

### 禅文化研究所墨蹟曝涼展 【50 周年記念事業】

禅宗寺院及び当法人が所蔵する書画を一般公開し、美術に関する講演を行なう墨蹟展を花園大学歴史博物館と共同で開催する。平成 26 年 4 月 2 日から 6 月 7 日まで、花園大学歴史博物館で、「禅文化研究所創立 50 周年所蔵作品展 不立文字展」を開催した。期間中の入場者数は 1422 名であった。

また、10 月 6 日から 12 月 13 日まで、「甲斐の名刹 恵林寺の至宝展」を開催。この展覧会の図録は花園大学歴史博物館から発行され、その作成協力を行なった。

### 黒豆データベース公開事業

当法人がこれまで電子テキスト化してきた禅宗文献のうち、訓注本として発刊してきたものの原文データベースを、簡易検索システムと共にホームページ上で一般に無償公開中で、随時、データファイルを追加する。但し、今年度の追加登録はなし。

### 誠拙周樗禅師墨蹟資料収集

大本山円覚寺中興大用国師誠拙周樗禅師 200 年遠諱（平成 31 年正当）に合わせ、円覚寺の依頼により、共同で禅師の書画墨蹟資料を収集し、情報を整理した上で墨蹟集を刊行

する。今年度は円覚寺派以外の全国の臨済宗寺院に調査票を送付し、墨蹟等の所在確認を行ない、所蔵が判明した寺院には再依頼をして資料写真を提供いただいた。集まった資料は、整理して円覚寺に送付した。

### 問い合わせに関する回答

資料の出典や解説等について、寺院・団体・個人を問わず様々な問い合わせが数多く寄せられる。それらの回答に無料で応じた。文書で行なった回答には以下のような質問が寄せられた。

「牛過窓櫺」の意味について（個人）／日本で購入した達磨の画像の賛の意味を教えてください（個人）／竹圃和尚について（個人）／一休禅師の一枚起請文について（個人）／興禅護国論所載観心論奥書について（個人）／臨済宗の葬儀で唱えられた真言について（個人）／禅林諸祖行状について（NHK）／漢籍の道春点について（寺院）／「莫言三界別無法…」という偈の出典をわかりやすく読める本は？（寺院）／偈頌の作成について（寺院）／ほか、墨蹟や落款の読みなどを含め40件。その他電話による質問多数。

## 3. Wikipedia のデータ修正・登録事業

インターネット上の電子辞書サイト(Wikipedia)の、禅や禅文化に関係する部分を見直し、データの修正や新規登録などを行なった。

## 〈3〉 広報・普及活動

### 1. 季刊『禅文化』の刊行

季刊『禅文化』は、禅の思想と生活及び文化・美術などに興味を持つ読者のための教養誌として刊行を続けている。今年度は以下の号数を発行した。

232号 特集「栄西禅師と建仁寺」

233号 特集「禅文化研究所創立50周年」

234号 特集「臨済禅師・白隠禅師遠諱に向けて〔前〕」

235号 特集「臨済禅師・白隠禅師遠諱に向けて〔後〕」

主な配布先は寺院、一般、花園大学後援会など。購読会員数3,109名。

### 2. 研究成果の刊行

#### 日本禅宗史・禅語録研究班の成果

- ①『坐る 白隠禅師坐禅和讃を読む』 西村恵信 (平成26年6月刊行)  
初版1500部 重版1500部 白隠禅師坐禅和讃の全文を解説しつつ、坐禅の目的を究明。
- ②『訓注毒湛和尚語録』 能仁晃道 (平成27年3月刊行)  
初版500部 南禅寺派南陽院の遠諱記念として発行。

#### 禅宗經典研究班の成果

- ①【重版】 『臨済宗檀信徒經典CD』3刷1000部

#### マルチメディア研究班の成果

- ①2015年禅語こよみ 画賛・小池心叟 (平成26年9月刊行)  
初版50,000部 禅のこころを生かしたミニ・カレンダー。
- ②DVD『王道を歩め』 嶺 興嶽 (平成26年5月刊行)  
初版3,000部 僧が語るシリーズ 第10作

- ③『禅の至宝』 禅文化研究所編 **【50周年記念出版】** (平成26年10月刊行)  
初版500部 創立50周年を記念して所蔵書画軸を掲載した図録。
- ④【重版】 『枯木再び花を生ず』2刷1000部／『子育てのこころ』3刷1000部  
『愛語』4刷1500部／『禅語に学ぶ生き方。死に方』2刷1500部

### 3. 公開講義「禅思想の諸問題」 [講師 西村恵信 (所長・花園大学名誉教授)]

所長による講義で、『増註 證道歌直截』を終えて、『信心銘闡義解』全3巻(中峰明本著)をテキストに一般社会人を対象に禅の基本思想を平易に教える。毎週火曜日開催を原則とし、今年度は40回開催した。約20名が参加。

### 4. ホームページの運営とコンテンツの充実

#### 禅文化研究所ホームページの運営とコンテンツの充実

ホームページのコンテンツ更新を行なった。また連動している臨黄ネット御用達市場にある「禅文化研究所オンラインショップ」の商品登録なども行なった。

#### 臨黄寺院ネットワークの運用協力

臨濟禅を世界に発信する公式サイトである臨黄ネットの情報更新及びコンテンツ制作を行なった。また現在展開されている「臨濟禅師1150年・白隠禅師250年遠諱事業」のページを新たに作成し更新した。

### 5. 公開講演会等

#### 公開講演会 1～3は50周年記念事業

『不立文字展』の記念講演会として、下記の2回の講演会を実施した。

- ◆平成26年4月16日(水) 13:00～14:30  
「禅文化の本質と、鑑賞の視点について」 西村恵信所長  
※講演に先立ち、横山文綱師の追悼法要を行なった。
- ◆平成26年5月14日(水) 13:00～14:30  
「墨蹟への憧れ～書作家の立場からの私的鑑賞～」  
尾西正成氏(京都橘大学助教・日展会友)  
創立50周年記念式典に合わせ下記の記念講演会を実施した。
- ◆平成26年10月10日(金)  
「禅の現代的意義についてー鈴木大拙の思想に学ぶ」 竹村牧男(東洋大学学長)  
『甲斐の名刹 恵林寺の至宝展』の記念講演会として、下記の2回の講演会を実施した。
- ◆平成26年10月28日(火) 13:00～14:30  
「快川国師と恵林寺」 横山住雄氏(濃尾歴史文化研究所主宰)
- ◆平成26年11月25日(火) 13:00～14:30  
「恵林寺散策」 古川周賢老師(乾徳山恵林寺住職)

#### 第12回 禅と文化の旅 平成26年6月4日

禅の教えと文化に触れる1日バスツアー。今回は“禅の居士”にスポットを当て、岐阜県の久松真一先生・古田紹欽先生の記念館を訪ね、さらに岐阜の名刹・東光寺の特別拝観(所長による講演)を行なった。

### 教化・運営の実践講座(サンガセミナー)

寺院の公益性が求められるなか、僧侶や寺族が、より踏み込んだ知識や技能を身につけ、寺院の活性化につなげるための実践講座。平成 26 年度は京都で 8 のセミナーを開講し、一般も含め約 127 名が受講した。また、大分講座として万寿寺をお借りして実施。2 講座に 113 名が受講した（大分講座は 50 周年記念事業）。

### 6. 広報・普及

研究成果としての刊行物を、各種媒体を通して広報し、直販、寺院売店、書店の各ルートを通じて普及促進した。また、ブログ禅、メールマガジンの発行、あるいは Twitter や Facebook などを利用して、より広範囲に普及した。今年度は一般向けの新刊点数が少なかったことから書店への積極的な営業活動ができなかった。

現在、売店等で頒布を依頼している本山・寺院は以下の通り（業者委託分含む）。

妙心寺（花園会館）／建長寺／方広寺／永源寺／天龍寺／相国寺（承天閣美術館）／建仁寺／佛通寺／龍安寺（妙心）／鹿苑寺（相国）／慈照寺（相国）／高台寺（建仁）  
神勝寺（広島・建仁）／酬恩庵（京田辺市・大徳）／龍潭寺（静岡・妙心）／東慶寺（鎌倉・円覚）／湯木美術館（大阪）

### 7. 第 4 回禅文化賞授賞式【50 周年記念事業】

「禅文化賞」は、当研究所が禅を基本とした宗門向上の諸活動に功績があった個人・団体に贈るもので、功労賞と奨励賞を授与する。今回は次の 2 師が受賞した。

功労賞 大井際断老師（方広寺派管長）  
奨励賞 片山秀光師（妙心寺派地福寺住職）

### 8. その他事業

東西霊性交流の一環として、DIM（教皇庁諸宗教対話評議会）より、交流を紹介する番組制作を兼ねて実施。9 月 11 日より 14 日まで円覚僧堂に 2 名の修道士を受け入れた。

## II. 収益・共益等事業

### 〈1〉ソフト開発・販売等事業

#### 1. 宗教法人管理システム「擔雪Ⅱ」の販売

「財務管理」「法務管理」「会費管理」「寄付金管理」の各システムを発売中。宗門を中心に仏教諸宗への販売促進。DM（ダイレクトメール）やネット上のアドワーズ広告等を行なった。最新の Windows 8 にも既に対応済み。また、擔雪Ⅲの開発検討に入った。

#### 2. オーダー型宗務所管理システムの構築

##### 妙心寺派管理システムの運用サポート

布教師会管理システムの修正や追加要望に対応した。また、宗務本所の要請により、アンケートシステムの構築を行なった。

##### 相国寺資料目録DBの構築

共益事業で受託している相国寺資料の整理に伴い、整理した資料のデータベースを構築しているが、その資料を閲覧するためのシステムの制作を完了し、27 年 3 月に納品



した。

#### **南禅寺派管理システムの機能追加**

システムの追加要望に対応した。

#### **建長寺派管理システムの機能追加と運用サポート**

システムの機能追加要望に対応した。

#### **曹洞宗宗務所管理システムの開発と運用サポート**

保守契約によるシステム保守を行なった。京都に続き、福井県宗務所のシステムを開発し納品した。

#### **天龍寺派管理システムの運用サポート**

末寺管理等のシステムの運用をサポートした。

#### **佛通寺派管理システムの運用サポート**

保守契約によるシステム保守を行なった。

#### **⑧真言宗神奈川宗務支所システム開発**

支所管理システムの開発とサポートを行なった。

#### **⑨青蓮院管理システムの運用サポート**

システムの訪問サポートと保守サービスを行なった。

### **3. 宝物管理システム「禅の至宝」Windows 版の開発と販売**

一般寺院がデジタルアーカイブデータを管理するための宝物管理システム「禅の至宝」Windows 版の開発を行ない販売した。今年度販売数は 10 セット。また、調査を行なった大仙寺の宝物を「禅の至宝」SA 版に入力し 26 年 9 月に納品した。

### **4. 蔵書管理システム**

すでに開発完了し販売している、寺院等で所蔵される大量の書籍を管理するためのデータベースシステムを、公益事業にある大本山相国寺所蔵資料の整理業務の終了にあわせて、相国寺に納品した。

### **5. 出版物頒布**

他社から委託を受けた禅に関する出版物をホームページやDMなどで案内し頒布した。主な取扱い品：「日本の心 日暦」・「茶禅一如 日暦」・「干支色紙」（以上千真工芸）、「見てわかる仏事」（臨済宗青年僧の会）、「中国を旅した禅僧の足跡」（九州国立博物館）、「送喪儀」（連合各派布教師会）、「栄西と臨済禅」（別冊太陽 日本のこころ）、「いろはにほへとーある日の法話よりー（一、二）」（黄梅院）等

## **〈2〉 共益事業**

### **1. 大本山相国寺所蔵資料の整理等**

#### **①相国寺史編纂事業の補佐**

前年度に引続き、相国寺の史的研究に関わる、近世から近現代にかけての資史料類の調査・研究の補佐等を行なった。

#### **②大本山相国寺所蔵資料の整理・管理**

前年度に引続き、承天閣美術館管轄の図書資料類の整理・管理を行なった。

これまで行なってきた上記業務は、今年度末にて終了した。

## 2. 寺院委託出版

- ①『太聳山人録』 靈雲院発行／平成 26 年 11 月)
- ②『普大寺つれづれ』 妙心寺派普大寺発行／平成 27 年 2 月)
- ③『被兼務寺院調査報告書』 妙心寺派宗務本所発行／平成 27 年 3 月)

## 3. 引導法語データベースの公開

妙心寺派教学部と共同で制作した臨黄ネット寺院会員サイト内にある「引導法語データベース (287 法語)」について、今年度には大幅に増補を行ない、現在の登録済み数 332 法語とした。

## 4. 臨黄合議所事務局

### ○年間会議

- |                       |                    |
|-----------------------|--------------------|
| 平成 26 年 4 月 23 日 (木)  | 理事会 (相国寺派宗務本所)     |
| 平成 26 年 6 月 20 日 (金)  | 総会 (相国寺派宗務本所)      |
| 平成 26 年 9 月 5 日 (金)   | 理事会 (相国寺派宗務本所)     |
| 平成 27 年 1 月 22 日 (木)  | 理事会 (リーガロイヤルホテル京都) |
| 平成 26 年 8 月 29 日 (金)  | 教学部長会 (花園大学教堂)     |
| 平成 26 年 11 月 20 日 (木) | 教学部長会 (花園大学教堂)     |

### ○臨濟禅師 1150 年・白隠禅師 250 年遠諱事業の推進

記念講演会 (平成 26 年 6 月 27 日・よみうりホール) および報恩坐禅会の実施、各専門部会の開催とポスター・記念品の制作・配布等を行なった。

- 「臨黄会報」の発行 (41 号・42 号)
- 臨黄互助会の促進
- 中国仏教界との交流 (日中臨黄友好交流協会)
- 第 11 回臨黄教化研究会の実施 (平成 27 年 2 月 3 日・4 日)
- 会議等の事務処理